

# 奈良大学情報処理センター年報 第10号記念号の発行にあたって

情報処理センター所長 湊 敏

昭和63年4月に開設された奈良大学情報処理センターは、今年4月で満11歳の誕生日を迎えました。この間、情報処理センターは多くの教職員・学生に利用され、奈良大学の研究・教育の一助になってきました。また、平成2年に創刊した情報処理センター年報も皆様方の協力により今回第10号の記念号を発行する運びになりました。

センター年報の創刊時からかかわってきたものといたしましては、休みなく毎年年報の発行を続け、よく10号の記念号を発行できるようになったと思っています。一般に定期刊行物の創刊は簡単ですが、続けていくことは難しいと言われていています。特に本学は文科系の学部だけで構成されていますので、コンピュータに関連した原稿を毎年集めることができるのかと心配していました。今だから言えるのですが、年報の創刊当時いったい何号まで発行することができるのだろうか、3号くらいで休刊になるのではと不安が一杯でした。しかし、“案ずるより生むが易し”とはよく言ったもので、年報を発行すれば多くの先生方や院生・学生、さらには事務職員の方も原稿を執筆して下さいました。年報を編集する作業は情報処理センターの事務職員の皆様にしていただきました。おかげで、この10年間休みなく年報を発行して行くことができました。今回年報第10号を発行するにあたり、これまで年報の発行に協力いただいた方々にお礼申し上げます。また、ときには期日内に原稿を集めるために、先生方には不快な思いをさせたこともあるかと思っておりますので、この場をかりておわび申し上げます。

さて、情報処理センターが開設して約10年が経ち、この間に私たちを取り巻く情報処理環境は大きく変化しました。開設当時は、センターの中央コンピュータは汎用機でしたが、第2世代はスーパーミニコンピュータになり、第3世代である現在はワークステーションになっています。クライアント機は、コマンド系からウインドウ系へ変わっています。取り扱えるデータも、昔は文字が主流でしたが、現在は文字・画像・動画・音声と広がっています。また、ネットワーク環境は学内だけのものから、インターネットを利用して学外とのコミュニケーションも可能なものになりました。

情報処理センターといたしましては、今後の情報処理環境の変化に対応するように努力いたしますが、この変化に対応するためには学内の皆様の協力も必要になってくるとおられます。今後とも、情報処理センターを利用いただき、貴重なご意見を賜りたいと願っています。